

TOPIC

癒やしの時

A Time to Heal



干ばつで枯れ果てたトウモロコシ畑（ザンビア）

気候変動や社会の分断という現実にあって、アジア学院は2026年、年間を通じたキャンペーンテーマを「癒やしの時」に設定しました。様々な機会を通じて皆様と一緒にこのテーマを深めていくにあたり、「癒やしの時」という言葉に表される私たちの想いを分かち合いたいと思います。

卒業生たちと共に歩む、気候変動時代の希望

ステイブン・カッティング

卒業生アウトリーチ課

2年前の夏、私はザンビアで、これまで見たこともないような光景のトウモロコシ畑で立ち尽くしていました。トウモロコシは、すべて死に絶えていました。発育不良で干からびた茎が、私たちの歩く足元で、乾いた音を立てて碎けていきます。

「農家がなぜ涙を流すのか、今わかったよ。」私は、そのトウモロコシ畑の持ち主であるジョン・ニョンド(1983年度卒)にその声をかけました。「ああ、私たちも嘆いていたんだ。」と彼が答え、ジョンの妻のジュディス・ニョンド・ダカ(2001年度卒)も、「今季は飢える人々が出るでしょう。」と付け加えました。

トウモロコシの種は7月の雨と共に蒔かれ、喜び勇んで芽吹いていました。背丈が1mほどになった頃、彼らはいつも通り堆肥を施しました。しかしその直後、突然雨が止んでしまったのです。トウモロコシは枯れ果てました。ここだけでなく、ザンビアの大変広い

地域で、同様のことが起きたのです。干ばつとはどのようなものか、私は初めて目の当たりにしました。毎年同じ時期に降り、当然のものとして期待され、人々の命を支えてきたはずの雨が、突然止んでしまう。それは、気候変動の影響を痛烈に実感させられる体験でした。

つい最近、私はベトナムのメコンデルタを訪れ、フウン・ンゴツ・ドゥック(2015年度卒)に会いました。農家を回る中で、いつも水が身近にあることに気づきました。デルタ地帯において、水は「命」そのものです。しかし、土地の平均海拔はわずか2m。ベトナムのお米の半分がここで生産されていますが、海面が1cm上昇するごとに脅威が増します。私は単なる訪問者に過ぎませんでしたが、気候変動を前にして、自分がいかに無力であるかを感じずにはいられませんでした。

(次ページへ続く)



(写真1) アディヴァシのリーダーたちとの会議 (インド)



(写真2) 木陰の下、歓迎の歌を歌う村人 (マラウイ)



(写真3) 養魚を行う湖とドゥック。乾季には水田になる (ベトナム)

(前ページの続き)

遠い国の話だけではありません。ここアジア学院の農場でも同じです。雨や気温、昆虫の発生サイクルはもはや正確に予測できません。私たちは今、作物が良く育つタイミングを「推測」するしかないのです。そして夏の猛暑(特に午後)は外で作業をすることさえ不可能なほどです。

気候変動の危機的状況は周知の事実ですが、正直なところ、私たちはそれに疲れ果て、時に無力感さえ抱いてしまっています。だからこそ、アジア学院は今年、支援者の皆様と一緒に深めたいテーマを「癒やしの時(A Time to Heal)」(旧約聖書コヘレトの言葉3章3節より)としました。「癒やし」という視点を持つことで、切迫した状況から一歩身を引いて、再生の時を思い描くことができるからです。

さらに「癒やし」は、気候変動のみならず、分断の深まる社会における他者との関係にも、今まさに求められています。今年行うキャンペーンやイベントにおいて、様々な「癒やし」について皆様と一緒に考えていきたいと思えます。



傷ついた大地にやさしく生きる
イースター・春のキャンペーンテーマ

私たちの大地は苦しんでおり、より優しく、思いやりのある手当てを必要としています。この点においても、卒業生たちが道を示してくれています。

昨年、南インドのケララ州で、ヴィジャヤ・シン・ロイ・デイヴィッド(2003年度卒)が「アディヴァシ」と呼ばれる先住民の人々に会わせてくれました。彼らは千年の間、原生林と調和して暮らし、必要なだけを受け取り、必ず幾分かを残してきました。ハチミツを採るときは、ハチの住処を奪わないよういくつかの巣は手つかずで残しておきます。根を掘るときは、引き続き成長するよう一部を土に残します。これは、目先の利益のために森を一度に伐採してしまうような、現代の「やさしくない」関わり方とは対照的です。アディヴァシの人々は、大地にやさしく生きるとはどういうことかについて、大切なことを教えてくれます。

マラウイでは、キャサリン・ンタンボ(2012年度卒)が活動するコミュニティへと案内してもらい、大きな木が生み出す涼しい木陰の下で、活気に満ちた村人たちに出会いました。その木は、かつて彼らに植えられて、大きくなったものでした。マラウイの多くの地域では、調理に使う木炭を得る

第15回クボタ・毎日地球未来賞
「大賞」を受賞



この度アジア学院は、毎日新聞社が主催する「第15回クボタ・毎日地球未来賞」において、一般部の「毎日地球未来賞（大賞）」を受賞いたしました。本賞は、21世紀の地球が直面する「食料」「水」「環境」の問題解決に取り組む団体・個人を顕彰するものです。約50年にわたり、開発途上国の農村指導者と共に「土と共に生きる」生活を実践してきたこと。無農薬による循環型有機複合農業によって90%を超える食料自給率を維持していること。そして、ジェンダー公正や平和構築への多岐にわたる取り組みが評価されました。

2月14日（土）には、受賞記念活動報告会が毎日新聞大阪本社にて執り行われ、アジア学院も校長の荒川治がプレゼンテーションを行いました。皆様のお支えなくしては成し遂げることのできなかった受賞です。心より感謝申し上げます。

「食卓から気候変動行動へ」
ディナーイベントを東京で開催



11月12日、聖心女子大学内のオーガニック・レストランにて「Tasting Climate Action - 食卓から気候変動行動へ」と題した英語によるディナーイベントを開催しました。このイベントでは、気候変動の影響に適応し、自らのCO₂排出を削減するコミュニケーション構築を支援する、アジア学院や卒業生たちの取り組みに焦点を当てました。多くの卒業生は、気候変動を主たる分野として活動しているわけではありませんが、学院での研修の影響もあり、その活動や生活は低炭素なものとなっています。

参加者の多くは、サステナビリティ啓発、林業、食品関連事業に携わる方々でした。アジア学院や卒業生について初めて知る方も多数いらっしゃいました。ご出席いただいたことに深く感謝するとともに、今後、新たな関係性を築いていくことを楽しみにしております。

ために木々が伐採されています。しかし、ここではその逆が行われています。「木を丁寧に植えること」が、気候のサイクルを穏やかにする」という理解のもと、人々が、家や学校、病院の周りなど、あらゆる場所に何千本もの木を植えているのです。

アジア学院においても、大地が持ち合わせている許容量を超えて生産を強いるようなやり方は行いません。私たちは、堆肥をゆっくりと時間をかけて完熟させてから畑に施します。愛情を込めてアイガモを育て、田んぼに放つことで、他の農家が農薬や除草剤で殺してしまうような害虫や雑草を食べてもらいます。

こうした方法、またその他の数え切れないほどの試みを通じて、アジア学院とその卒業生たちは、「傷ついた大地にやさしく生きる」ための努力を続けています。

何事にも時があり
天の下の出来事にはすべて定められた時がある。
生まれる時、死ぬ時
植える時、植えたものを抜く時
殺す時、癒す時
破壊する時、建てる時：
（旧約聖書 コヘレトの言葉
3章1〜3節）



世界へ「27の希望の種」を蒔く

阿部・チャタジー・マノシ

教務主任

神様の豊かな祝福と皆様の継続的なご支援により、今年度も無事に、16ヶ国から集った27名の新卒業生を送り出すことができました。

9ヶ月の間、多くの学生が自国における様々な困難に直面しました。故郷の状況に心を痛め、帰りたいという思いを抱えながらも、自らの使命に向き合い、学びを最後まで全うしようとする姿は、神様への揺るぎない信仰と、アジア学院コミュニティ、そして故郷のコミュニティからの愛と支えがあったからこそ可能となったものです。

4月のオリエンテーションで、学生たちは「コミュニティとは何か」という問いに向き合いました。協力し合うこと、尊重、傾聴、互いを思いやる心、食を分かち合うことなどが、答えとして挙げられました。アジア学院の学びの核心は「参加」であると私たちは考えていますが、そのラテン語の語源である「participare」は「他者と何かを分かち合う」という意味です。学生たちは共に過ごす日々の生活を通じて、価値観を同じくするところと、意義のある違いの両方を発見していきました。

私たちは同時に、自らに問い続けました。本当に「共に生きている」のか。

静かに耐えながら苦しみを抱えてはいないか。受け入れ合うとは何か。難しいところを避けてはいないか。明確な答えはまだ存在しないかもしれませんが、こうした問いはアジア学院での9ヶ月を超えて広がり、それぞれのコミュニティにおいて、自分たちに何ができるのかを深めていく足掛かりとなるでしょう。

日本社会でのコミュニティの希薄化という課題、そして水俣、大阪、広島、足尾における差別や不正義、農村の高齢化や気候変動の影響など、さまざまな重いテーマにも向き合いました。こうした現実が暗い印象をもたらす一方で、私たちに「希望」を示すつながりもあります。大阪南YMC A、日本基督教団全国婦人会連合世界教会運動委員会、水俣「からたち」の皆様との長年のご縁は、アジア学院が広い世界につながるコミュニティであることを示してくれます。今年も東京、大阪、水俣で、計52のホストファミリーに支えていただきました。

今年も元農場長の荒川治が校長として就任した年でもありました。これは農業とリーダーシップのつながりをより具体的に示す素晴らしい機会となりました。どちらも、すべての命の源で



(写真1) 昨年12月13日に行われた卒業式

(写真2) 足尾銅山鉍毒事件について、坂原辰男さんの説明を聞く(9月)

(写真3) コーチングの授業で互いに感謝を伝え合う(11月)

(写真4) 西日本研修旅行にて、大阪南YMCAの皆様と(11月)



ある神と土への深い感謝と理解に根ざしているのです。学生は、リーダーシップ技術、持続可能な農業、開発学、振り返り、研修旅行、家畜飼育や朝夕の調理など、計1937時間のカリキュラムを修了しました。

三度のプレゼンテーションにも取り組みました。古いカレンダーの裏紙を使うというアナログな形式は、技術に頼らず、自らの伝えたい核心を深く見つめる機会となりました。「これほど多様な聴衆の前で発表したのは初めての」「自分の地域の人々に伝えていける自信がついた」といった声が多く聞かれました。英語が第二、第三、第四、あるいは第五言語である学生も多い中で、の挑戦は、大きな成長の証です。

各自のコミュニティに関連する課題に焦点を当てた個人プロジェクトも行いました。食品加工、アメリカミズアブの幼虫やバナナの茎を用いた家畜の飼料作り、地域プロジェクト計画、インタビュー、翻訳、教材開発など、多様な探究が実を結びました。

研修プログラムには今後も改善の余地が多くあります。起業や収入創出につながる学び、気候変動に直面する地域の実情に根ざした農業・畜産の探究など、より深めるべき領域があります。こうした課題は、学びがここアジア学院で完結しない、これからも続いていくのだという現実を表しています。

多くの卒業生は厳しい現実へ帰ってきます。災害や紛争の影響を受けている地域、社会の不正義や搾取の影響を大きく受ける国々。その現実、私たち一人ひとりが社会の中で果たす責任を深く見つめる必要を教えてください。そして同時に、困難な状況にあってもなお、地域のために立ち上がろうとする卒業生たちの存在の尊さを示しています。

卒業生たちは語ります。「人の尊厳を守り、声なき声に耳を傾け、誰一人取り残さないリーダーになる」と。それは容易な道ではありません。しかし、西日本研修旅行で彼らが歌った「虹」の歌が教えてくれるように、雨のあとには美しい虹が架かります。そして、地域に寄り添いながら働く卒業生たちの存在があれば、「きつと明日はいい天気」と信じていることができると私は思っています。





2025年度研究科生(2019年卒) インド

Jeremiya Narzary

ジェレミヤ・ナルザリー

プリシラセンター

Priscilla Centre

現場責任者 / 自然農法指導員

Field Supervisor-cum-trainer, Natural Farming



荒川 朋子

常務理事

(関係構築・アウトリーチ統括)

卒業後に学院に戻り、1年間学びを深める研究科生(トレーニンググアシスタント)。新たな分野を通して、これまで以上に地域社会の再生を担う力をつけたジェレミヤを紹介します。

🌱 食品加工の可能性を探求する

2019年に卒業した東北インド・アッサム州出身のジェレミヤは、2025年度の研究科生として再び来日し、研修事業を支えながら個人プロジェクトとして食品加工を学びました。クッキーやケーキなどの菓子類、パン、ジャム、ケチャップといった加工品づくりに挑戦し、その成果は学院の日々の食生活を豊かにしただけでなく、学院のイベントでも販売され、収入向上にも貢献しました。

食品加工を学ぶ中で、ジェレミヤは「食品加工は家庭の食卓を豊かにするだけでなく、想像以上の可能性を秘めている」と気づきました。加工品の小規模ビジネスによる新たな収入源の創出はもちろん、食材に新たな価値を与えることで余剰生産物の廃棄を減らし、保存性や運

搬性を高めることもできると実感したのです。さらに、加工に必要な材料の多くは地域や自身の畑で調達できるため、地域の食料自給率や食料主権の向上にもつながることを理解しました。また、安全や衛生に関する専門的な知識を得たことで、送り出し団体の質の高い技術を伝授する自信も深めています。

帰国後は、まず自宅でいくつかの加工品を試作し、手応えを得られたら近隣の学校の前で販売してみたいと考えています。その実践を通して、マーケティングの可能性も探っていきたいと意欲を見せています。アッサム州の食材が、アジア学院で学んだ食品加工技術によって新たな価値を得て、地域のより豊かな食生活づくりに貢献していく未来を期待しています。

「アジア学院オンラインショップ」 アジア学院ウェブサイト内に リニューアルオープン!

クッキーなどの商品や書籍を取り扱っています。どうぞご利用ください。



ジェレミヤが作り方を学んだ
アジア学院のクッキーについて

アジア学院で製造・販売しているクッキーは全粒粉クッキーと黒糖クッキーの2種類です。過去にはチョコレートやナッツが入ったものを期間限定で販売したこともありました。当時のことを知ることはできませんが、新しい商品の開発にあたりアジア学院の使命に立ち返り、原料もレシピもシンプルで、世代を超えて多くの人に愛されるものに収斂していったのだと思いを馳せることがあります。フードライフ(食べもの)のうちの切っても切り離せない関係が備わるレシピは、製造工程が明快でどんな人でも再現できるので、おのずと高品質で手に届きやすい価格の商品となっており、多くの人の手に渡っていくことでしょう。農場で採れた小麦粉や卵、フェアトレード食材を使った私たちのクッキーを通して、より多くの方に「共に生きるために」を感じていただければ幸いです。

(佐藤 裕美)

寄付者御芳名

日比頁のご支援に心より感謝いたします!

集計期間 2025年11月1日～12月31日

(敬称略・順不同)

サポーター寄付・一般寄付

【北海道】井澤美恵子 WitmerRobert・圭子 大竹敏雄・陽子 高橋浩二 朴美愛 宮崎善昭 (キ)札幌北一条教会 (教)野幌教会 (公)平取聖公会【青森県】木村幸子 (学)弘前学園聖愛中学高等学校宗教部【岩手県】浅利友重・志津子 酒匂徹・淳子・合敏・榛 佐藤真名 澤谷常清・ひろみ 渡辺君子【宮城県】小林孝男 庄子泰子 高橋千沙【秋田県】丹波望【山形県】志藤正一 須藤フミ【福島県】江戸清・和美 加藤恵 川瀬安希 斎藤仁一・隆子 杉原義雄 長峯久夫・巖 本田千佳 松谷健司【茨城県】安東優 池添善幸 小幡幸和 金谷喜一郎 小林徳朗 佐藤みちよ 塚田洋子 角田ひろみ 伏木正進 百瀬義広 LagawanAnnieJane (キ)古河伝道所 土浦友の会 (公)水戸聖ステパノ教会 聖マリア婦人会 水戸友の会【栃木県】TatenoNellie 阿久津啓司 阿久津節子 AppauBernardTimothy 阿部真希子 荒川治 荒川朋子 飯島恵子 池田桂子 井澤路 今岡憲治 江連勝明 大谷雅代 大野喜久子 大柳由紀子 小倉一郎・恭子 柏谷重明 片桐洋史 川添信義 吉川芳 木村裕子 小林誠 小鮎拓丸 小松原啓加 駒庭千秋 小山博子 坂入貴子 佐藤範明 沢谷千亜紀 椎貝桃子 塩水賢太郎 篠田快 芝本沙南 白石雄治 砂川正子 高嶋幸雄・ヒサ子 高見信子 瀧澤昌弘・久恵 武智明美 田中淳子 田中隆子 谷口敬介 谷山寛 佃美智子 樋江徳子 中川善昭 中澤堅次・映子 長瀬美香 永谷香 中野雄大 中村育子 長山くるみ 並木ベッカ 布川武男 橋本穂子 花塚洋史 PamintuanFrancisca 早川幸子 林真智子 林美智子 羽山信輝 原田明子 潘畑旭 平石恭子 深澤敏 藤井祐子 藤田カツノ 藤東佳子 古内辰子 古谷慶一 増山律子 McCurrier 里美 三橋恵子 宮岡明子 三宅隆史 武藤仁志 棟形さつき 村田榮 八木沢淳 八塚敏枝 山口秀夫 山下崇 吉村典子 和田敏一・静枝 渡部静子 渡部律子 (一財)アジア農村交流協会 家の教会しおん (教)宇都宮教会 宇都宮友の会 (カ)大田原教会 (教)小山教会 小山聖ミカエル教会 小山友の会 (学)さつき幼稚園 (教)佐野教会 (カ)厳律シスター会 那須の聖母修道院 那須友の会 西那須野幼稚園・こひつじ保育園・シャローム (教)西那須野教会 (カ)ベタニア修道女会 聖ヨゼフ山の家 ベンシオン・シャローム (教)益子教会 Minggos (学)矢板学園やいたこども園 (教)矢板教会 立正佼成会 那須教会【群馬県】植原憲秋 磯信子 亀田瑠子 白井真澄 飛田成史・紀代美 奈賀信 野村英孝 (公)北関東東区婦人会 (教)群馬地区婦人部 前橋友の会【埼玉県】最上久美子 池内清子 石田哲士 茨木公子 河鳥清久 保雄一郎 小林和夫・加名子 武真人 田島悦子 千村雅信 寺田篤哉 長岡静志・治子 中田光也 星孝一郎 眞壁日史郎 三浦幸雄 宮下保 吉崎玲子 渡辺栄一 (教)日本聖公会 浦和友の会 (公)川越基督教会 草加友の会 東京聖書集会「なぐさめの箱」(公)日本聖公会 北関東東区 (キ)南浦和教会【千葉県】青戸和己 青戸貞愛 天野潤 猪狩友行・多佳子 上田英二 金子聡子 竿代光信 佐久間健 佐藤伊一郎 佐藤千支子 鈴木良子 関祐造・美枝子 高花富夫 富樫有貴 中村敦子 野田節子 藤原敬治 矢口敏和・愛子 山本栄子 横田明久 吉田真理子 市川友の会 (カ)同河キリスト教会 (教)柏教会 千葉友の会 松戸友の会【東京都】足立恵子 阿部哲夫 新井伶子 粟谷しのぶ 安藤真 飯塚哲二 飯沼一元 石井智恵美 石田満 井出誠彌 犬塚靖子 若切岩本桃子 上田浩子 内城節子 大野綾子 片岡加味美 片岡大造・仁枝 金子智雄 神谷幸男 川俣茂 神崎千都子 神田和可子 久世陽子 栗山昌子 黒田俊介 小池恵子 小泉裕子 小杉元 小杉直美 小林正子 小林元子 近藤真子 斎藤潤 斎藤宣子 坂田幸夫 坂本朋子 佐藤たみ子 佐藤太郎 佐藤裕子 佐藤弘徳・百合子 佐柳信男 澤田博 志田悦子 鈴木節子 STANLEYOlson TownJesse 高梨勝也 高野美恵子 竹野裕子 田代洋子 玉木光一 辻政子 角田秀明 露木美奈子 土岐剛平 殿塚婦美子 中島悦子 長塚紀子 永山スミ子 並木浩一 南都隆一 豊川治樹 西秀樹 西尾孝幸 西田恵子 能登尚子 野村紘子 野村正宣 花岡尚子 馬場元毅 林千根 原かおり 原島博 PowerThomas 久山道子 日高好男・啓子 平尾壽雄 福田一成 藤田真貴 藤倉和郎 古川文江 堀越由美子 本多峰子 真下弥生 栢田京子 増田泰子 松井伸一 松田浩道 松原真 丸山正文 滝澤美佐子 宮内ひろみ 宮崎真紀子 村木徳一 望月伸子 本山順子 安井直彦 矢野正貴 矢吹正道 山岡清二 山縣史子 山崎百合子 山田貴司 山根正彦 山本隆幸 山本学 横田理恵 米倉敬宏 陸久美子 渡辺多恵子 渡邊友香 (学)青山学院女子短期大学同窓会 (学)エスト東京ユニオンチャーチ (教)志村栄光教会 婦人会 (カ)お告げのフランススコ姉妹会 (教)学生キリスト教友愛会 国立聖書研究会 恵泉女学院中学・高等学校 (教)小石川明星教会 (学)香蘭女学校 校友会 長脇村茉莉子 (学)国際基督教大学高等学校キリスト教活動委員会 (教)杉並教会 (カ)聖コロンバン会 (公財)全国友の会振興財団 全国友の会中央部 (教)洗足教会 多摩友の会 鶴川シオン幼稚園 (教)田園調布教会 (教)東京教区南支区婦人委員会 (公)東京聖三一教会 東京第一友の会 東京第二友の会 東京南口ターニークラブ (学)東洋英和 虹の会 日本聖書神学校 (学)日本聖書学校 (教)原町教会 (教)東久留米教会 婦人会 (教)碑文谷教会 (教)百人町教会 (特活)フェアトレード・ラベル・ジャパン 普連土学園 宗教委員会 (教)水元教会 (学)明治学院高等学校 (教)白百合教会 (株)ヨベル (カ)煉獄援助修道会【神奈川県】浅井亜紀子 浅野美穂 安積力也 阿部恵 荒井明子 井口典子 井口恵 石井光 石川明子

石丸志賀子 一色有喜 今川信夫 岩澤裕基 岩谷幸子 江頭眞彦 江坂宏子 遠藤抱一 岡田雅晴 尾崎久美 笠置正民 川上豊子 川辺美弥子 駒形朋子 柴田善家 進宏一 杉山君枝 鈴木尚子 仙頭靖夫 高田英明 田中一昭 徳升清香 中島菜々子 長島典子 永田佳之 仲野晶子 中本尚孝 鍋嶋那津子 福田邦男 淵野民代 堀川浩邦・恵子 本川鏡子・南海子 本田忠行 松島直子 武藤禰子 村山宏志 MensendiekJeffrey 望月義郎 森田吉世江 山口淑子 山崎恵 山本俊正・CaludiaGenung (教)生田教会 (学)大塚平安学園ドレーパー記念幼稚園 (教)片瀬教会 鎌倉友の会 (カ)同 捜真バプテスト教会 (教)辻堂教会 (キ)鶴見教会 東京第四友の会 (学)フェリス 女学院中学校・高等学校 横浜友の会【新潟県】荒井眞理 大西洋司 海津武尚 (教)新潟地区 教会婦人会連合 (教)東中通教会【石川県】丸丸敬子【福井県】福井友の会【山梨県】田中耕太郎 山梨英和大学 学生教職員一同【長野県】青木栄作 荒井洋子 石島美枝子 甲藤コリ 柄澤真理子 柴田光昭 塚田明人 森田矩子 吉田超【岐阜県】谷口明 山本直樹【静岡県】武井陽一 富永雪穂 木橋克己 山下清二 吉沼紀美代 (キ)磐田西教会 (教)遠州栄光 教会 (学)聖隷クリストファー中・高等学校【愛知県】伊藤幸彦 岩田佐和子 鈴木麗子 塚田昇 深谷ひろみ (学)名古屋学院 名古屋ユニオンチャーチ【三重県】岡塚樹【滋賀県】太田宣子 秀熊ともよ 大津友の会【京都府】松村康弘 荒川まな 上田祐未 岸良平 櫻井鋭子 三角瑞代 メンセンディークマサ MorimotoHermansenChristian (公)聖アグネス教会国際会衆 (学)同志社中学校 (学)平安女学院中・高等学校 宗教センター【大阪府】荒川伸二 大川四郎 大本和子 日下弘子 見満紀子 小西裕美子 陳野友洋 MizukiPaul 山下純正 (公)石橋聖トマス 教会 (公)大阪女学院 大阪友の会 (教)希望ヶ丘教会 (教)都島教会【兵庫県】植木多香子 大森直実 黒田喜久子 島田恒 谷佐代子 MacintoshJanet 湊千賀子 森澤正明 森宗秀敏 (公)芦屋聖マルコ教会 (カ)カルメル会修道院 (教)神戸栄光教会 栄寿会 神戸ユニオンチャーチ (キ)西宮中央教会 (カ)善きサマリア人修道会【奈良県】池田康彦【和歌山県】田尻忠邦・須賀子【鳥取県】(学)良善幼稚園【岡山県】有道幸子【広島県】東谷和代【山口県】片山由美子 中井淳 (カ)キリスト・イエズスの宣教会 防府修道院【愛媛県】入船重厚【高知県】田中茂太郎【福岡県】荒川彰 荒川淑 北九州友の会【佐賀県】坂本元嗣【長崎県】里 長崎銀屋町教会【熊本県】山根誠之 熊本友の会【大分県】鶴丹谷 公代 林田 里美 森山 信三 大分友の会【鹿児島県】植松節子 阿久根めぐみこども園【海外】SibleyEllaElschenbroichDonata 米国合同教会・キリスト教会共同世界宣教

寄付金	11月	3,005,903円	寄付金	11月	3,005,903円
実績状況	12月	17,403,626円	実績状況	12月	17,403,626円
寄付金合計		20,409,529円	寄付金合計		20,409,529円

寄付金がアジア学院に入金された日に
に基づき掲載しております。
入金日は口座振替の場合はご決済の1ヶ月後、クレジットカードの場合は2ヶ月後です。

書き損じハガキ

【北海道】小樽友の会【栃木県】郡司いく子 館脇義人 堀野尚昭【群馬県】植原映子【埼玉県】池内朗 高島未知 細川敦子 (教)熊谷教会 (教)草加教会【千葉県】加藤富久 市川友の会【東京都】木村はるみ 新藤真美子 渡辺真理子 (公財)JELA (教)東美教会【神奈川県】尾崎久美 柴田有 本川鏡子【長野県】吉田超【三重県】前村修佑【兵庫県】葛西隆史

一品寄付

【栃木県】岩田昭彦 菊池幸雄 SchmidtLinda 藤田カツノ 前波真一 チーズ工房那須の森 マ・メゾン光里【埼玉県】佐竹登子【東京都】楠田史子 山田貴司 (学)女子学院 中学校・高等学校【長野県】馬場英臣【愛知県】深谷ひろみ

(医)医療法人 (医社)医療法人社団 (学)学校法人 (カ)カトリック (株)株式会社 (教)日本基督教団 (キ)日本キリスト教会 (公)日本聖公会 (公財)公益財団法人 (公社)公益社団法人 (財)財団法人 (社)社団法人 (宗)宗教法人 (特活)特定非営利活動法人 (カ)同 日本バプテスト同盟 (福礼)日本福音ルーテル教会 (有)有限会社

寄付金領収書について

口座振替・クレジットカードでご寄付頂いた場合、所得税法により、領収書の領収日は、アジア学院に入金された日とさせていただきます。

#フードライフなひとコマ

食べものといのちを育む。アジア学院の日常

暑さと寒さに耐えた有機にんじん!

にんじん
ジュース
の旅



冬本番のアジア学院では、今年もたくさんのにんじんを収穫することができました。総収量は約4トン。早朝に行った播種作業や毎日の水やり、炎天下での除草作業と、夏の多くの苦労が報われた収穫の時となりました。

これらのにんじんは工場に送られ、看板商品であるにんじんジュースとなります。葉っぱ切りに洗浄、選別、そして箱詰めと、収穫後も多くの作業が続きます。

今年には27名の学生とボランティアの皆さんの尽力に加え、1月にはアメリカのセントオラフ大学の学生達の手も借りて、無事作業を終えることができました。大変な作業ですが、共に働くことを通してお互いを知り、また自然の恵みに感謝の心を持つことは、フードライフの本質でもありま

す。

多くの人々の働きと愛情が詰まった2026年のにんじんジュース、ぜひご賞味下さい!



岡田英里
フードライフ課農場



癒やしの時 A Time to Heal

イースター・春の寄付キャンペーン

環境再生、コミュニティ開発、次世代リーダー育成。
アジア学院は傷ついた大地を癒やす人を育て、希望の種を蒔いていきます。
この活動をご支援ください。



その1 払込票

同封チラシ下部の払込票にて郵便局よりお振り込みください。



その2 クレジットカード

左のQRコード、またはアジア学院特設サイトよりご寄付ください。



その3 銀行振込

※ゆうちょ銀行もご利用いただけます。

銀行：足利銀行 西那須野支店
口座：普通 0112403
名義：学校法人アジア学院 理事長 山本俊正

古本市

※4/19(日)は閉店

4/17(金) ▶ 4/25(土)

OPEN 11:00 - 16:00

会場 那須セミナーハウス隣接 旧宣教師館

全国から寄贈された文庫本、絵本、美術書などが100円～。ここだけの出会いをお楽しみください。

古本市での売り上げは、アジア学院の研修プログラムのため、大切にさせていただきます。



古本募集中!
アジア学院まで
お送りください

第54回 入学式

4/11(土) 13:30～

会場 アジア学院コイノニア食堂

送迎 那須塩原駅発 12:30 アジア学院発 15:30, 16:30

農村コミュニティの発展を目指して集う学生たちの学びを応援してください。どなたでもご参加いただけます。電車でお越しの方は、那須塩原駅間の送迎バスをご利用いただけます。



今年の主なイベント

- 収穫感謝の日 10/17(土), 10/18(日)
- オープンキャンパス 5/30(土) 以降随時開催します
- ちょこっとファーム&フォレスト
今年は5月、7月、9月、11月、1月に開催予定

予定は変更の可能性があります。
最新情報はウェブサイトをご覧ください。

English Farm Camp

5/3(日) ▶ 5/5(火)

宿泊先：那須セミナーハウス

参加費：1人目 30,000円、
2人目以降 15,000円/人

申込期限：4/20(月) 先着順 (アジア学院ウェブサイトより)

※お子様だけの参加はできません。

GWの恒例行事。英語を使いながら楽しく「いのちと食べ物」に触れてみませんか?



退職のお知らせ



カシー・フローディ
学生募集

13年間勤務。「長年の間、アジア学院や皆さまの人生に関わることができたことは大変幸せなことでした。変わらぬご支援に感謝します。またお会いしましょう!」



ティ・ティ・ウィン
FEAST (給食・食育)

2024年度研究科生を経て1年間勤務。「たくさんの楽しい思い出と、私に働く機会を与えてくれたアジア学院とサポーターの皆様に、深く感謝いたします。」



安藤 香
庶務

2018年から約8年間勤務。「心温かい人々の中で安心して仕事ができたと感謝します。少し離れた場所からアジア学院を応援しています。」

お礼状・領収書発行時期について

本年1月以降のご寄付のお礼状兼領収書は、原則として来年1月にまとめて発行いたします。
1月を待たずに領収書を必要とされる方は、通信欄またはsupport@ari.ac.jpにてその旨をお知らせください。